

アトピーやしみ・あざ・脱毛治療

間違った認識を していませんか？

野口皮膚科医院
院長 野口 幹正氏

皮膚治療は民間医療に頼らずまず専門医へ

—なぜ太田市で開院されたのですか？

かつて総合太田病院在職中に、太田のみならず東毛地域の皮膚科診療が行き渡っていない事を感じていました。同じ診療をするのなら、よりお役に立ちやりのあるこの地域を選びました。開院して二ヶ月が経ちましたが、皮膚科以外の診療所や市販薬における治療ないしは民間療法等を経て受診される方が多いですね。予想はしていましたが、驚かされる日々です。

—特にどのような疾患についてが多いですか？

アトピー性皮膚炎ですね。昨今営利目的の民間療法が横行していますが、特にこの地域では状況がよくありません。最近では皮膚科学会をはじめとする専門医からの発信が徐々に浸透してきた為か、四～五年前に比べると状況は改善しています。アトピー性皮膚炎は皮膚科にかかっているとはいえ「い」なんて事をうたい文句にした業者が多数いて、またその説法に従っている方も多く、皮膚科医として非常に気の毒かつ残念です。

—いったいなんでそのようになったのですか？

ステロイド外用剤が乱用された時期があったことや、皮膚科専門医からのアトピー性皮膚炎についての説明がなされないままマスコミの過剰報道が先行し、患者さんたちが不安を抱き各種業者の草刈場になってしまったことが、原因として挙げられると思います。

—アトピー性皮膚炎の説明と云いますと？

まず大多数は思春期以前に治るものだという事をご存じない方が多く、それを逆手にとって、「療法で治った！」なんて宣伝文句をう呑みにして

しまうケースが多い事です。何かをして治ったのではなく、偶然その時期であったということ。かつて、ステロイド外用薬の乱用からくる副作用から恐ろしいものだとの認識が植えつけられてしまいました。適切に使用することで副作用を残さずに苦痛を取り除くことが出来るのです。つまり使う使わないの論議ではなく、適切に処方・指導出来るように研修した医師が使用しているのかという事が重要なのです。

—指導と云いますと？

ステロイド外用剤をはじめ保湿剤・免疫抑制剤等の外用法においては、まず皮膚の中でどんな事が起きているのかを理解していただき、患者さん個々の日常生活での注意点について説明・相談に重点を置きます。日常生活上の指導ほど効果があるものは無く、逆にいくらか薬剤等を変えても誤った生活習慣の下では改善はしません。

—その他の疾患については？

皮膚科全般の通院で治療出来る疾患の治療はもちろんです。地域クリニックのニーズの中には色素性疾患やスキンケア・美容相談も多く、こちらを力をつけたいと思います。具体的にはレーザーを用いたほくろ・しみ・あざの治療や永久脱毛、レチノイン酸(にきび治療にも効果的)・ヒドロキノンといった美白剤の自家調剤、ケミカルピーリング、レーザーピーリング、多汗症の電気治療等です。こちらの治療も大変喜んでいただいています。



院長 野口 幹正

昭和38年生まれ
平成2年群馬大学医学部卒
日本皮膚科学会認定専門医
日本皮膚科学会指定研修施設指導医
平成14年4月野口皮膚科医院を開院

しみ、あざ、脱毛治療も 皮膚科医院で可能

—しみ、あざや脱毛といえは美容外科やエステサロンで行われるのでは？

うちでは、まず、Qスイッチ付きアレキサンドライトレーザー機によって保険適応のあるほくろやあざの治療を行っています。そのレーザー機でしみの治療も可能です。さらにもう一台、出力がマイルドで、口径が大きなアレキサンドライトレーザーを導入して、浅いしみの治療、レーザーピーリング、さらにレーザー脱毛を提供しています。こういった保険適応外の美容的な治療というと、皮膚科医院ではやらない、ないしは高額な料金を要すると認識されていた方が多いようで、治療法、値段を説明すると「意外!」とか「安心すぎて信憑性がない!」なんていう声があり、驚かされ、美容業界の摩訶不思議さを感じます。

—たとえば、どのような値段設定で施行しているのですか？

ケミカルピーリングは5000円、レーザーピーリングは8000円、脱毛はたとえば両わきならば一回10000円で4回目以降は無料など…です。

—各種の美容的な相談があるとは思いますが、特にしみの治療についてお聞かせ下さい。

治療法としては、レーザー治療・ケミカルピーリング・ピタミンCのイオン導入や最近話題の美白剤の外用等です。それぞれの説明を簡単にすると

レーザー治療(含むレーザーピーリング)
これは黒いものに反応するレーザーを用いる治療です。狭い範囲に短時間集中して行い周辺部の損傷が少なくすむものや、弱いレーザーを顔全体に当て薄いしみの治療等が出来ます。応用編として毛も黒いわけですから、毛母細胞に反応させ永久脱毛も可能です。

ケミカルピーリング
薬の力で皮膚表面の角質と表皮の一番外側を溶かす治療です。

レーザーピーリング・ケミカルピーリングのそれぞれの長所を生かし、併用治療がもっとも効果が高いです。

ピタミンCのイオン導入

ピタミンCがしみに効く事は有名ですが、電気により皮膚内にイオン導入させる事で、大量に深く入れる事が出来ます。前述のピーリングをした直後は最も浸透が良いのでお勧めします。

美白

次の二種類が主となります。まずレチノイン酸は皮膚の分裂を促進し色素を排泄させます。多くの化粧品でしわに効果があるとされる類似品がありますが、実際にはこれの百分の一程度しか生理作用はありません。他にも皮脂線の働きを抑制やコラーゲンの活性化作用があり、にきび治療にも利用します。次にヒドロキノンですが、しみの原因のメラニン色素を作らせなくするものです。同じく市販の美白製品では成分がこれの百分の一程度しかありません。当院ではこれらを自家調剤しご希望される方にお譲りしています。

さまざまな治療法がありますが、レーザーとその他の治療法の併用がしみには一番効果的です。

取材協力

野口皮膚科医院

住所/太田市飯塚町704-1
電話/0276-60-1211
診療科目/皮膚科・形成外科
診療時間/午前(9~12時)
午後(15~18時)
休日/日・水・祭日、土曜日午後



赤い看板が目印です

